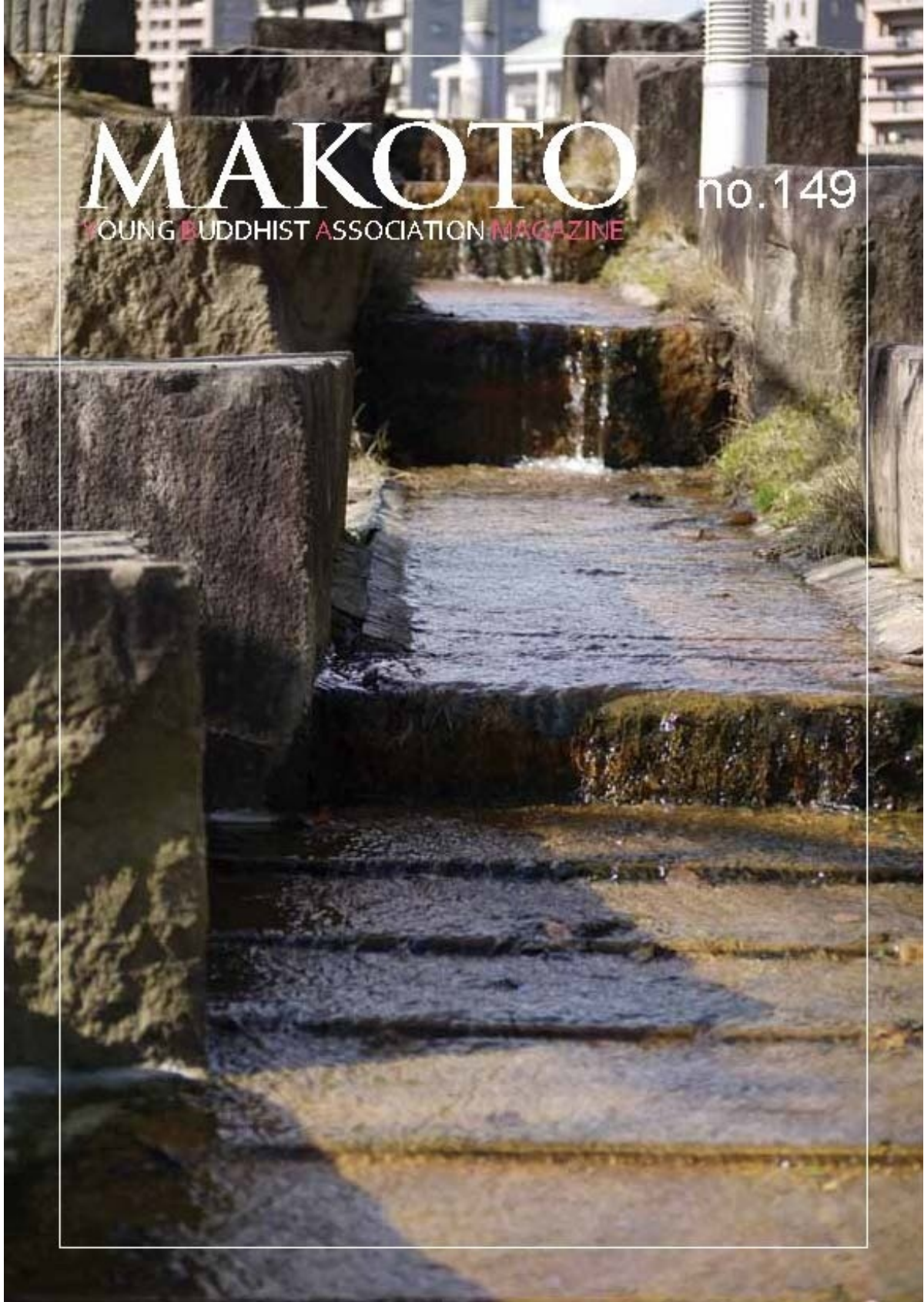


# MAKOTO

YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION MAGAZINE

no.149





# かわる

かわる、カワル、変わる、代わる、換わる ……。

いろんな「かわる」がある。

毎日、同じ生活をしているけれど、かわっている。

不思議なことだ ……。

昨日の自分と今日の自分は同じだけど、かわっている。

いつも換わっている。移り変わっていく。

「諸行無常」 かわらぬものは一つもない。





## CONTENTS

- ❶ いまできること
- ❷ 劇団四季ミュージカル「夢から醒めた夢」観劇記
- ❸ 彼國の便り
- ❹ 変わる
- ❺ とあるお寺の継職法要
- ❻ 編集後記
- ❼ 全国真宗青年の集い熊本大会

# いまできること

文・上高原直樹

2012年11月16日から18日、22日から23日の5日間かけて、宮城県仙台市にある仙台別院『東北教区災害ボランティアセンター』を拠点に災害復興ボランティアに行ってきました。

5日間で主に私のさせてもらったボランティア活動は、震災復興ボランティア団体『おもいでかえる』での活動でした。『おもいでかえる』とは、震災時の津波などで流されてしまった、写真、賞状等をがれきりの中から拾ってきて、汚れたアルバムから切り取り、エタノール等で洗浄し、乾燥させて最終的に展示会などを行い、持ち主の方の手に写真が戻ることを目標に活動している団体です。

今回僕は、写真の切り取りの作業を2日間させていただきました。写真はどれも泥や海水などでとても汚れていました。写真の状態もかなり悪いものもあり、なかなか作業が難航しそうなものばかりでした。一枚一枚アルバムから切り







取り、どの地区から来たものかナンバリ  
ングするという作業ですが、この写真が  
持ち主の方に戻ればと思いつながらの作業  
でした。10時から16時までの作業でだ  
いたい100枚くらい作業を終えることがで  
きました。

このボランティアに参加している人自  
体も全国各地からきていて、毎日入れ替  
り立ち替わりで新規のボランティアの方  
が来ています。写真の展示も2012年  
の2月29日から3月25日に第1回目を行  
い、2回目も近々予定しているとい  
うことでした。

今回僕はここが主なボランティア活動  
でしたが、2年前の3月11日からいまだ  
に様々な場所でボランティア活動が行わ  
れています。飛行機からみた仙台の海岸  
線はまだ護岸工事をしていたり、生々し  
いものがありました。しかし、いざ仙台  
市内に着くと本当にここが被災地なのか  
と思うようなまぎらびやかな光景でした。



震災復興ボランティア団体

おもいでかえる 

大切な思い出がかえりますように



「東北教区災害ボランティアセンター」では、平成23年3月17日の設置以来、全国から集まったボランティアは3,300名を超え、のべ14,000人の方々が奉仕活動を続けています。また、このセンターはボランティアの方々のための宿泊施設としてもお使いいただけます。宗派内は元より、他宗派・他宗教の方、一般の方々にも多数ご利用いただいております。すべては、復興という思いを持たれている方々のための施設です。お気軽にお問い合わせください。

「東北教区災害ボランティアセンター」

〒980-0824 宮城県仙台市青葉区支倉町1番27号

電話：022-227-2193 touhokuyouku@asolekids.co

いくら運物ばかりになってもかまわない  
被災者の心の傷はなかなか癒えることが  
できないと思います。

現地の人ばかり来てくれるだけで  
とてもうれしそうです。ありがとうございます。  
あなたよりも現地に一度足を運んでみてく  
ださい。そして、東日本大震災を忘れない  
でください。

2011年冬に観劇した劇団四季ミュージカル「夢から醒めた夢」について紹介します。この作品は、赤川次郎原作で今日までに140万人以上動員しているそうです。この舞台の観劇は、約20年ぶり2回目。20年前といえば、当時私は小学生でしたが、初めて観た劇団四季ミュージカルがこの作品でした。

まずは、ストーリーを簡単に…

好奇心旺盛で死後の世界に憧れる少女ピコは、夢の配達人が運んできた夢の世界に足を踏み入れ、夜の遊園地で幽霊の少女マコと出会う。交通事故で突然命を奪われてしまったマコの「生き返らして母親を助ますために、一日だけ入れ替わって欲しい」という願いを受け入れたピコは、マコの光の回行きの白いバスポートを手に豪華空港に行き、そこで働くさまさまな幽霊たちと出会う。そして、再びピコとマコが入れ替わる時がやってくる……。  
 冒頭の夜の遊園地のシーンでは、白鳥ピエロのエネルギッシュなマコロバットシーンには釘付けやがて幽霊の少女マコと出会う。入れ替わって豪華



劇団四季ミュージカル「夢から醒めた夢」観劇記 文・田中博也

空港「やってきましたピコは、そこで出会ったさまさまな無期をとげた幽霊たちとのやりとりの中で、日頃忘れかけている大切なことに気づきます。

それは、「競争や順位で不本意な死をとげた子供がたくさんいるのに、自ら命を絶つとはなんて愚かなことか」「みんなアメエのことばかり考えやがって、なんて身勝手なんだろう」「そして」「回っている人に手を差しのべることの大切さ」「自己中心的なばかりではなく誰かに対して思いやりや優しさを持っている人もたくさんいること」でした。

最後の場面で一日だけこの世へ戻ってきたマコが、あの世へ戻らなくてはならない時間がやってきました。そのときお母さんが要する我が娘を確保すがりつくシーンがあります。このラストの生と死の入れ替わりの儀式が、「夢の夜の遊園地」シーンだと思えます。生と死の境界、あの世とこの世の境、でも、そこに存在するのはピコが「生」でいる「生」ということと、マコが「生」でいた「

ということ。

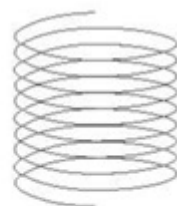
この世に戻ったピコは最後のシーンで唄います。あの世へ旅立ってしまったマコ、豪華空港で出会ったかけがいのない人々。みんな近くにいなくても、自には見えない。「みんな光になったのね！」と、このミュージカルの根本にあるもの、それは「生きていくだけで素晴らしい」「与えられた命を大切にしながら生きていく」ということだと思えます。

僕は本当にミュージカルを観るのが好きです。その理由は、劇場という非日常の空間で、体は密着しているけど心は俳優たちと一緒に舞台にいくことができるから。そして、舞台上で振り上げられる糸乱れぬダンスや、興奮するハイクオリティなパフォーマンスは、観客さんの胸しい種古や努力の物語なんだな。そう思っただけで、自然と涙が出てきます。非日常世界の感動をいっぱい感じながら、今の日常の世界がますます充実したものになるよう、自分自身を高める努力を続けていこうと思えます。



## 彼國の便り

善無<sup>×</sup>悪  
有



私たちは、様々な価値観をもって生きています。この価値観の違いから争いが起こることも多いのではないのでしょうか。そんな時に、つい「自分が正しい、相手が間違っている」と考えてはいませんか？ こんな童話があります。

一人の画家がいました。この画家は、まだ若い頃に「だれが見ても心が和む、暖かい絵を描いて欲しい」と依頼をうけたそうです。この依頼に、画家は悩みます。「どんな絵を描けばだれしもの心が和むのであろうか。穏やかな海を描こうか、しかし、海で辛い思いをした人もいるだろう。雄大な山を描こうか、しかし、山で辛い思いをした人の心は和むまい。」途方にくれた画家が公園で休んでいると、数人の子供たちが遊んでいる姿が目に入りました。「そうだ、子供の笑顔を描こう」画家は、子供のなかでも特に笑顔のすばらしい子供の絵を描きました。依頼主はたいそう喜んだそうです。数十年後、この画家に今度は「誰が見ても背筋の凍りつくような、恐ろしい絵を描いて欲しい」との依頼がありました。またしても悩んだ末に、「何人も人を傷つけた恐ろしい人は、恐ろしい顔に違いない。」と考えると、監獄にいきました。なかでも一番恐ろしい囚人の顔を描いたそうです。絵を描いていると囚人が話し掛けてきました。その話から、この囚人は数十年も前にとびきりの笑顔を見せてくれた子供だと分かりました。

私たちは、数え切れないほど多くの人と関わって生きています。自分の価値観も、その中でできあがりました。ですから、自分が正しい、と考える前に少し謙虚になってみませんか？

文・高田篤敬（仏青連盟指導講師）



# 変わる

文・巖根眞弥

「まさや、餃子食べたいからどこか連れてって」

これは、ちよつと家から遠い、僕の大好きなラーメン店まで、おはあちゃんと久しぶりに一緒に行った時の話です。車で30分ほどのお店に僕の運転で行きました。

車の中でおはあちゃんが言います。「あんな小さかった子が自分の車でおはあちゃんを連れてってくれるなんて想像もしてなかったわ」って……。おはあちゃんは僕が成長する度に同じことを言います。中学校に上がったときも「まさやの制服姿見られるなんておはあちゃん嬉しいわ」とか、初めてのお参りで布袍ふろまをきた時も、大学に進学した時も……。じいじのことなのに「相変わらず大母さまだなあ」と思いながら運転をしています。

30分後お店に着いて、僕は特製ラーメン大盛りとライス、おはあ



ちやんは餃子とご飯とで湯を頼みました。ラーメンが出来上がるまで、僕もおばあちゃんもなかなかの勢いで食べ始めました。僕はラーメンがすごく好きなので、食べている時はいつも笑顔になってるそうです。おばあちゃんはその僕を見て嬉しそうにします。あまりにもおばあちゃんがニコニコしながら食べているので、僕もつられて笑ってしまい、なんかおかしい一人になってしまいました。

ラーメンを食べ終わったので、おばあちゃんを見ると、お皿には餃子も残って煮ても飯も、見事に残っています。おばあちゃんは僕の方を申し訳なまそつに見て、「ごめんね、おばあちゃんも今年だから、食べられないや。」と言います。たしかに量の多いラーメン店だったので、「なら僕まだ食べられるからもう一つわ」と、おばあちゃんの残したものをすべてまわしに食べました。食べながら

幼いの頃、ラーメンが大好きでつい無理をして大盛りを注文し、結局食べきれなくておばあちゃんに食べてもらってたなあ。しかも、帰りおなかが痛くなって歩けなくておぶってもらったことも……。それがいつの間にか立場が逆転。

よく地元の橋の下にある屋台のラーメン屋に連れてってもらっていたのが、今では僕がおばあちゃんを連れて行くようになったし、あんなに若くて、毎日のように僕をおんぶしてくれていたおばあちゃんの想も、今ではシワも増えて、背丈も頭二つ分違います。おばあちゃんが小さくなったように少し小さくもありません。でも、これからは遠征ができます。気がして嬉しくもあります。

おばあちゃん、今度は僕がおんぶしてあげるから、安心して。元気でいてね。



# とあるお寺の

# 継職法要

ケイシヨクホウヨウ

文・野口哲城



お寺には「任職」という方がおられます。お寺の法要やご門徒の御法事をお勤めしたり、お寺に関わる様々な事を責任もって行われる方です。また、その役目が代わる事を「任職継職」といいます。

11月、長崎県にあります西明寺というお寺で「任職継職」の法要がお勤まりになりました。こちらのお寺で受け継がれてきたその職もこのたびで十九世となります。

十八世任職は、35年間ご任職を務められました。新しくご任職になります町田秀敏さんが誕生した年でした。そして、その新任職様も今年でちょうど35歳となります。

法要は午前中お勤まりになりました。まず、お寺の庫裏(住まい)からの行列が本堂に入ります。行列は大きな太鼓と雅楽の音色が響く中仏旗を先頭に、お寺の役員さん、婦人会のみなさんをはじめ、雅楽を奏でるお坊さん達に続き、色彩豊かな装束を纏った信众。そして、かわいい御稚児さんたち、

最後に法要を勤められます新旧両任職さま。法要のお勤めは、この日のためにご門徒さんや保善圓の皆でお種古してまた宗祖御伴法音流法要のお勤めです。オルガン、雅楽の賑かな音色、そしてみなさんの元気を声で賑々しく法要がお勤まりになりました。引き続きお衣の授与、新旧任職さまのご挨拶等の式典、ご法帖をもって一座の終了となります。

翌日、翌々日の法要を勤めますのは新しい御任職です。お庫からの余風では、ご門徒とご任職達が、地区に受け継がれてきた太鼓、笛、踊りの披露。外のテントでは、新任職さんの同級生やご門徒の兼い、西結会の青年の皆さんも総出で御参詣の皆さんや、子供たちにも色とりどりの補菓干、ポップコーン、おもちゃ等を振る舞ってくださいました。様々なもの、ことが受け継がれていきます。

町田さん親子は、お寺で法務をする傍ら、田畑でお米や野菜を







作っておられます。こちらのお寺では土に根差した生活も代々受け継がれてきました。季節野菜、お米、蕎麦。親戚聖人の御命日の一月の御正忌にはこちらの畑で育てられた蕎麦の葉から手打ちのお蕎麦がふるまわれます。御法事にいった折、近所のご門徒さんが、稲の立ち具合おたんぼの水の事を心配して教えてくれるそうです。住職さんも、急に法事法事になりたくて稲をたてに田んぼにやられます。をたより自分が食べられるもの、そして作物を育てる楽しみ、農作業は孤独なものではなく、土を通して、人と人のつながりや助けをあらためて、教えてくれることがある。そう話して下さいました。

食卓にあるお米、お店にあるお米、お祭りやお弁当、何も考えることなく、頂いている食事の中、ひとつ一つの作物に水や土を離れて来たものはありません。どんな仕事や暮らしをしていても、何年



も土を触ることがなくても、わたしたちは水や土を離れて暮らす事はできません。

土に根を下ろし  
 風と共に生きよう  
 種と共に冬を越え  
 鳥と共に春を歌おう

ある谷に伝わる歌を思い出します。この度の記事の取材で久しぶりに、土に触った気がしました。



## 編集後記

### 上高原直樹

第2回目の発行になりました。今回のテーマは「かわる」でした。季節的にも、新しく職場がかわる、あるいは、進学などで学校がかわるなど様々な「かわる」機会があると思います。私事ですが、4月から私も進学ということで学校がかわります。新しいことへの期待と不安を楽しみにがんばりたいと思います。

### 野口哲城

年度がおわります。今年は減量に成功して服のサイズが変わりました。「やればできる」を実感した一年です。来年は身長を伸ばしたいです。

### 巖根眞弥

「変わる」改めて考えてみると実際いろいろなものが変わっています。心情だったり、季節だったり、預金残高だったり、考えればきりがなくなって思うのに、いざ書くととなにも思い浮かばない。今回めっちゃめっちゃ記事を書きだすまで時間かかりました。この春で学生終了なので、大きな「変わる」です！不安90%希望10%ですが、頑張っていこうと思います！

### 海野康成

今回の makoto149 号のテーマは、「かわる」でした。編集後記を書いていて思い出しましたが、第1回広報委員会の会議で冗談半分に、次の「まこと」のテーマを「かわる」にしたら、どうですか？と言いました。それが運命の始まりでした。今思うと、私のアイデアで良かったのかと思います。やはり、次の makoto は150号だから、あの「テーマ」になるのだろうか。乞うご期待。

### 田中慎也

今回、広報委員になって初めて「まこと」の原稿を書かせていただきました。文章を書くという作業は、すごく労力があることだと改めて実感しました。今後も「まこと」の製作を通じて、自分を高めることができればと思います。

MAKOTO no.149

浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟福岡連 2013年3月25日発行 印刷：角文堂印刷株式会社  
編集/発行：仏教青年連盟 広報委員会 〒600-8601 京都市下京区堀川蓮花町下ル 浄土真宗本願寺派 宗務所向 TEL: 05-371-5181(代)



本当に「大切にすること」ということ

### 大会パネリスト

上野千鶴子 (東京大学名誉教授)

雨宮処凛 (作家・反貧困ネットワーク副代表)

田尻由貴子 (慈恵病院看護部長)

栗山俊之 (筑紫女学樹木短期大学部教授)

2013 全国真宗青年の集い **熊本大会**

担当：熊本教区仏教青年連盟

日時 十月十二日(土)・十三日(日)

会場 くまもと森都心プラザ



makoto No.149

<http://p.booklog.jp/book/69322>

著者 : bussei

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/bussei/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/69322>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/69322>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ